

説明の仕方の工夫を見つけよう！ 教材「アップとルーズで伝える」 中谷日出 文

本単元で育成する資質・能力

コミュニケーション能力

第4学年2組 男子11名 女子11名 計22名

研究主題

対話を機能させ 考えを深める学びづくり
～ 言葉による見方・考え方を働かせ、学び合いのある授業を通して ～

1 単元観

【学習指導要領との関連】

本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年「読むこと」の内容(1)イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」を受けて設定したものである。

【本教材の特性】

本教材の特性として大きく2つ考える。

- ①本教材は、児童が最もよく目にするメディアであるテレビの映像技法を中心に述べられており、送り手が相手や目的に合わせて「アップ」と「ルーズ」を選んで伝えていることを説明した文章である。
 - ②筆者は、写真と対応させながら「アップ」と「ルーズ」の長所と短所を記述することで、目的に応じた映像技法を用いることの必要性について、説得力をもたせて伝えている。児童は、このような筆者の説明の仕方の工夫を知ることによって、効果的な説明の仕方について理解を深めることができる。
- 以上の特性を生かし、本単元では、教材文から筆者の説明の仕方の工夫を見つけたり、本教材を他の説明的な文章と比較したりすることで、いろいろな説明の仕方に気付かせ、児童の表現力に生かしていくという学習活動を設定した。

2 児童観

【既習単元での実態】

本学級の児童は、1学期に「動いて、考えて、また動く」の学習において、各段落の要点をとらえ、段落相互の関係を考えながら読む学習を行った。その際、接続語に着目して段落相互の関係をとりえようとする児童は多かった。しかし、各段落の要点をとらえて段落相互の関係を考えることに対しては、苦手としている児童が多い。

【国語科アンケート調査結果】

1学期末に行った国語科アンケートの項目「説明的な文章の学習では、筆者が伝えたいことは何かを考えながら読んでいます。」において、肯定的評価をした児童は77%であった。筆者の伝えたいことを意識せず読んでいる児童が4分の1いる。

【対話を機能させた学びの実態】

アンケートの項目「理由をつけて考えを伝えている。」では、「ややあてはまる」と答えた児童が33%、「あまりあてはまらない」と答えた児童が19%であり、半数の児童が自信をもてていない。その原因として間違いを恐れる児童が多いことが挙げられる。しかし、ペア・グループ学習を進めることについては意欲的であり、良さを感じている児童も多い。

【分析】

これらのことから、本学級の児童には、中心となる語や文に着目して、段落相互の関係をとりえながら文章を読む力を育む学習を繰り返すとともに、段落のつながりをとらえることによって、説明の仕方の工夫に気付くことができる読み方を育てていく必要がある。

3 指導観

(1) 単元全体を通して

本単元では、特に以下の点に留意して指導を展開する。

- ①既習の説明的な文章と教材文の説明の仕方を比較することで、筆者の説明の仕方の特徴をとらえやすくする。いろいろな説明の仕方を知ることによって、今後の児童の学習活動において役立つという意識をもたせる。
- ②段落相互の関係や説明の工夫をとらえるために、4・5段落の一部と7・8段落を抜いた教材文を児童に示す。そうすることで、説明の仕方に工夫がされていることや、筆者が何を読者に伝えたいのかをとらえやすくする。
- ③学習の中でペアやグループ活動を意図的に仕組む。選択式の問いを設けたり、条件を限定する指示を出したりすることによって、考えを出しやすくし、児童同士の考えの交流が活発に行われるようにする。

(2) 学習に用いる言葉・表現・語彙

学習に用いる言葉

段落 対比 指示語 接続語 「問い」と「答え」 題名 筆者の考え

着目させたい表現・語彙

アップ ルーズ 伝えられること 伝えられないこと
受け手 送り手 接続語（しかし でも このように）
文末表現（～を～といいます ～のです 伝わります 分かります 分かりません）

(3) 対話を機能させる学び合いに向けた手立て（聴く・つなぐ・もどす）

- 一人一人の考えとその根拠を意識して、友達の考えを最後まで分かろうとして聴くことを大切にする。
- 課題解決のために、これまで学習したことをつなげて考えさせる。友達の考えを繰り返したり、続きを考えさせたりすることで、個の考えをつなぐ。
- 教材文にもどって考えることを徹底させる。学習したことを基に、個にもどして、自分の言葉でまとめをさせる。

4 単元の目標

- 筆者の説明の工夫を見つけるために、段落相互の関係や、事実と意見との関係を考えながら、文章を読もうとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- 筆者の表現の工夫を説明するために、段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むことができる。 【読むこと（1）イ】
- 指示語や接続語が、文や段落の関係を示す手がかりになることを理解することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）イ（ク）】

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
ウ 「記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合う言語活動」を通した指導		
○筆者の説明の工夫を見つけるために、段落相互の関係や、事実と意見との関係を考えながら、文章を読もうとしている。	○筆者の表現の工夫を説明するために、段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読んでいる。	○中心となる語や文、指示語、接続語に着目して、段落相互の関係や事実と意見の関係をとらえている。

6 本校で育成したい資質・能力

	資質・能力	めざす姿
スキル	コミュニケーション能力	中心となる語や文、接続語や指示語に印をつけたり、ワークシートを使ったりして、自分の考えを、筋道立てて伝えたり、友達の考えを比べながら聴いたりしている。

7 単元計画

(1) 単元構想図

説明の仕方の工夫を見つけよう！ 教材「アップとルーズで伝える」

課題発見・課題設定 (1)

- 説明的な文章には、いろいろな説明の仕方があるんだね。
- 筆者の考えが、「はじめ」と「終わり」に書いてある（双括型）のもあるし、「終わり」にだけ書いてある（尾括型）のもあるね。
- 「動いて、考えて、また動く」は、筆者の考えを説明するために、「中」の部分で、体験した事（事実）と体験から考えたこと（意見）を繰り返して書いてあったね。

次の説明的な文章は、どんな書き方がしてあるのかな。



教材文「アップとルーズで伝える」を読み、説明の仕方の工夫を見つけよう。

情報の収集 整理・分析 (4)

- ① 教材文（1～6段落）を読み、内容をとらえる。
- ② 段落ごとの要点をまとめながら、段落相互の関係をとらえる。
- ③ 筆者の、説明の仕方の工夫を見つける。【本時】
- ④ 7・8段落の役割を考え、全文の段落相互の関係をとらえる。



まとめ・創造・表現 (2)

いろいろな説明的な文章から説明の仕方の工夫を見つける。
説明の工夫を交流し、いろいろな説明の仕方に気付く。

振り返り (1)

筆者が何を伝えたいかによって、説明の仕方が違うんだね。

自分が伝えたいことを書く時や言う時には、どんな伝え方がいいか考えてやってみよう。

実行

- 【国語科】
 - 新聞づくり
- 【特別活動】
 - 学級会
- 【総合的な学習の時間】
 - 高齢者施設のリーフレットづくり
 - 1/2成人式

(2) 指導計画 (全8時間)

次	時	・学習活動 資質・能力の重点	評価観点			◇評価規準 (評価方法)
			関	読	言	
第一 次	1	・既習の説明的な文章をふり返りながら、学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。	○			◇筆者の説明の工夫を見つけるために、段落相互の関係や、事実と意見との関係を考えながら、文章を読もうとしている。(行動観察)
	2	・教材文(一部抜き取り)を読み、大体的内容をつかむ。		○		◇教材文(一部抜き取り)を読み、大体的内容をつかんでいる。(ノート)
	3	・教材文(一部抜き取り)の要点をまとめ、段落相互の関係をつかむ。 ☐コミュニケーション能力		◎		◇事実と意見との関係を考え、段落相互の関係をつかんでいる。(行動観察・ノート) ◇中心となる語や文、指示語、接続語に着目して、段落相互の関係をつかんでいる。(行動観察・ノート)
	4 本時	・筆者の説明の仕方の工夫を読み取る。 ☐コミュニケーション能力		○		◇「対比」を使って説明することのよさをとらえている。(行動観察・ノート)
	5	・全文を提示し、7・8段落の役割を考え、全文の段落相互の関係をつかむ。 ☐コミュニケーション能力		◎		◇段落相互の関係をつかみ、文章全体の構成をつかんでいる。(行動観察・ノート) ◇中心となる語や文、指示語、接続語に着目して、文章全体の構成をつかんでいる。(行動観察・ノート)
第三 次	6	・いろいろな説明的な文章から説明の仕方の工夫を見つける。		○		◇中心となる語や文をとらえて段落相互の関係をつかみ、説明の仕方の工夫を見つけている。(行動観察・ノート)
	7	・説明の工夫を交流し、いろいろな説明の仕方に気付く。 ☐コミュニケーション能力		○		◇伝えたいことが何かによって、説明の仕方の工夫に違いがあることに気付いている。(行動観察・ノート)
	8	・学習のまとめをする。	○			◇今後の学習に向けて、考えを伝えるために、どのような工夫をしているかを考えながら読もうという意欲を持っている。(ノート)

8 本時のねらい

(1) 本時の目標

- ・筆者の説明の仕方の工夫の一つである「対比」を使って説明することのよさをとらえることができる。
【読むこと(1)イ】

(2) 本時の評価規準

- ・「対比」を使って説明することのよさをとらえている。

(3) 準備物

- ・文章構成図
- ・ワークシート
- ・4・5段落の付け加え教材文

(4) 学習の展開 (本時 4/8)

分	学 習 活 動 ○主な発問や指示 ・予想される児童の反応	☆指導上の留意点 ◆配慮を要する児童への手立て	◇評価規準 (方法) ★資質・能力
5	<p>1 抜いていた4・5段落の後半の文章を提示する。 ○実は、教材文から抜いていた文章がある。この文章は教材文のどこに入れるとよいだろう。 ・アップとルーズの伝えられないことが書いてあるな。 ・「しかし」「でも」とあるから前の文章と反対の意味かな。 ・「分かる」ことを説明したあとに「分からない」ことを説明してあるのでは。</p> <p>2 本時の学習課題の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【めあて】筆者は、なぜ、この文章を入れたのだろうか。</p> </div> <p>3 教材文の音読をする。 ○筆者は、なぜ4・5段落の後半にこの文章をいれたのかを考えながら音読をしよう。</p>	<p>☆抜いていた文章がどの部分に入るか考えることで、叙述に着目できるようにする。 ☆抜いていた部分を全員で確認し、のりで貼らせる。</p> <p>☆4・5段落後半の文章がなくてもアップとルーズについては分かるのではないかと問い、課題意識を高める。</p>	
8 7	<p>4 筆者の説明の仕方の工夫を見つける。</p> <p>○4・5段落の後半が入れられている理由を考えよう。 ・6段落に「アップとルーズには伝えられることと伝えられないことがあります」と書いてあるから、「伝えられないこと」の説明が必要なのでは。 ・伝えられることだけでは、どんなことが伝えられないのか、よく分からない。 ・アップとルーズの伝えられることと伝えられないことが書いてあれば、どんなときにどちらを使えばよいかははっきりする。</p> <p>○この説明文で対比を使っているところが他にもないだろうか。</p> <p>・AとBの写真。CとDの写真。 ・題名も「アップとルーズ」になっているね。</p>	<p>☆全員が1回は、意見が言えるように、しっかり聴き合う。 ◆「よく分からない。」と言うことも大事にする。しかし、その後、友だちの意見を聴いて、自分の考えを言うようにさせる。</p> <p>◆4・5段落の内容を表にまとめることで「対比」を使って説明されていることを視覚的にとらえやすくする。 ☆「対比」という言葉とその意味を理解させる。</p> <p>☆対比した写真も使われていることに気付かせる。</p>	★コミュニケーション能力

15	<p>○筆者は、どうしてこんなにたくさんの対比を使って説明しているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アップとルーズの違いがはっきりする。 ・伝えられることと伝えられないことがよく分かる。 ・よくないところが分かれば、その分よいところがもっとはっきりする。 ・どんなときにアップやルーズを使えばよいか分かる。 	<p style="text-align: center;">考えを深める対話</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆説明の中に対比を取り入れるよさを考えさせる。 ☆なぜアップとルーズの違いをはっきりさせなければいけないのか切り返す。 ☆6段落の筆者の考えにつなげる。 	<p>◇「対比」を使って説明することのよさをとらえている。 (行動観察・ノート)</p>
<p><本時でめざす子どものすがた></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対比をたくさん使っていることで、アップとルーズの違いがはっきりする。 ・伝えられることと伝えられないことがよく分かる。 ・「目的に応じてアップとルーズを切りかえながら放送している」と書いてあるから、違いをはっきりさせないといけない。 			
<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>【まとめ】 筆者は、対比を使ってちがいをはっきりさせることで、自分の考えを読み手に伝えたかった。</p>			
5	<p>6 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</p> <p>○今日の学習で、分かったことや「なるほど」と思ったことを書こう。</p> <p>○実はこの文章には続きがあるので、その文章の役割について、次の時間に考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆「説明の工夫」について、分かったことや、「なるほど」と思ったことを書かせる。 ☆続きの文章があることを伝えて、関心をもたせる。 	

(5) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">ま と め</div>	<p>対比</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つのものをくらべてちがいをはっきりさせること ・対比で説明されるよさ ・比べてあることでそれぞれのよさがはっきり分かる。 ・どんなときにどちらを使うか選びやすい。 <p>筆者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビは効果的に使っていることを知ってほしい ・読み手にも上手に選んでほしい 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">め あ て</div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; min-height: 150px;"> <p>筆者は、対比を使ってちがいをはっきりさせることで、自分の考えを読み手に伝えたかった。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; min-height: 150px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p>四・五段落をまとめた表</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; min-height: 150px;"> <p>筆者は、なぜ、この文章を入れたのだろうか。</p> </div>
<p>アップとルーズで伝える</p>		<p>中谷 日出</p>